

綱島家屋敷跡

道路右側が綱島家屋敷跡



綱島家屋敷とは、江戸時代金子村で名主を務めていた綱島家の屋敷です。江戸時代、足柄平野の大部分は小田原藩領でしたが、金子村の一部に旗本（将軍家の直臣^{じきしん}）の鶴殿氏の領地^{うどの}がありました。そのため、金子村には小田原藩領、旗本領の両方に名主と村役人が置かれ、綱島家は旗本領の名主でした。元禄2年（1689）年、鶴殿氏は後継者がいないため廃絶し、金子村はすべて小田原藩領になりました。しかし、それぞれの名主は残されたため、明治維新まで金子村には2つの村が存在するような状態が続きました。



明治38年（1905）年、綱島家は移転し、現在屋敷のあった場所は複数の住宅が建って当時の規模を知るのは困難ですが、一辺が50〜60メートルほどの四辺形でした。